



# 令和5年度 福島県立須賀川支援学校本校 学校経営・運営ビジョン最終評価

A: 達成できている  
 B: ほぼ達成できている  
 C: あまり達成できていない  
 -: アンケート対象者なし



## 教育目標

- 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。
- 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。
- 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

## 学校像

- ・みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校
- ・将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校
- ・地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

## 校訓

健康・友愛・感謝

## 児童生徒像

- ・明るく 強く 生きる人
- ・自ら学び 考える人
- ・心豊かで 思いやりのある人

## 教員像

- ・子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員
- ・指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員
- ・強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

## < 今年度の努力目標 >

児童生徒の生涯を通じたよりよい生活の実現に向けて、一人一人の病状や障がいの状態及び特性等に応じた指導の一層の充実を図ることができるよう、年間指導計画や個別の指導計画等の効果的な活用を通して、指導と評価の一体化に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。

### 小学部

- スタッフ会や授業担当者間で児童の実態や課題について話し合い、共通理解を図りながら児童に応じた適切な支援をすることができた。
- スタッフ会やグループ研修を通して、児童の課題関連図を作成したり、個別の指導計画を活用して指導目標や指導内容を共有・検討したりしながら実践し、授業の充実を図ることができた。

### 中学部

- 生徒個々への具体的な指導・支援の仕方や目標設定及び評価方法に関し、教員間で共有したり話し合ったりするなどして、個に応じた指導を充実させることができた。
- 年間指導計画と個別の指導計画の新様式を、実際に入力しながら検討を重ねてきたことで、次年度より使用する様式の活用方法まで話し合うことができた。

### 高等部

- 学年会や授業担当者会を通して、個々への指導方法や必要な情報について確実に共有を図ることができた。
- 校内研修やスタッフ会等で、自立活動の系統的な指導内容や評価を共有したり見直したりしながら充実に努めることができた。

## 健康

### 体

明るく 強く 生きる人

病気を理解し、健やかな体の育成をめざします

- 健康・安全生活の充実 小:- 中: AA 高: BA 教: AA 保: A
- 体育・健康に関する指導の充実 小:- 中: AA 高: BB 教: AA 保: A

## 友愛

### 知

自ら学び 考える人

教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします

- 学力の向上 小:- 中: BB 高: BB 教: AA 保: A
- 病弱教育の専門性の向上 教: BB

## 感謝

### 徳

心豊かで 思いやりのある人

豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします

- キャリア教育の充実 小:- 中: AA 高: BB 教: AA
- 道徳教育や交流及び共同学習の充実 小:- 中: AA 高: BB 教: AA

## 各種計画 目標

## 学部目標・学級目標

### 保健部 学校保健委員会

- 「良い歯の表彰式」や「食育講話」を実施し、歯と口の健康や胃腸の働き、生活リズムについて学び、健康への意識を高めることができた。
- 「性に関する指導研修会」を実施し、事例を基に具体的な支援や指導について意見交換をすることができた。
- 今年度も健康観察カードによる体調チェックを行いながら感染症対策をし、校内環境の整備に努めた。

### 生徒指導部

- 交通安全教室や学部集会等において交通ルールの確認や声掛け事案等のトラブルが発生した場合に速やかに連絡する等の対処法を学べる内容を設定し実施したことで、児童生徒の安全意識を高めることができた。
- 標語コンクールやインターネット利用実態調査等を実施し、望ましい生活習慣や情報モラルに関する意識を高めることができた。

### 教務部

- 自立活動の流れ図の作成により、病気の状態や障がい特性、発達の段階など、児童生徒一人一人の実態と課題をよりの確に把握することができるようになり、実態に基づく授業づくりにつながった。
- 実態に基づく授業づくりにより、指導目標や指導内容を適宜修正したり、学習活動を適切な評価につなげたりすることができた。

### 研修部

- 各グループ毎に自立活動の流れ図を用いて実践を進め、授業内容や課題等を振り返ったり改善したりすることで日々の授業や指導の充実を図ることができた。
- 研修会において講師の先生の話から、全国の流れや国の方針等を受けて、日々の授業実践に繋げることができた。

### 情報教育部

- ACC や AT、情報機器端末を活用しながら、児童生徒の情報化社会への対応や情報活用能力の育成を図ることができた。また、情報モラル診断を実施し、児童生徒の情報モラルに関する実態を把握し、情報モラルの育成や機器の適切な扱い方について、関係者と情報共有をすることができた。
- ICT 機器を活用することで、自分で調べたり、他者へ伝えたりする経験を重ねることで多様な学びや深い学びの実現をすることができた。今後も ICT 機器を効果的に活用した環境設定に努めていく。

### 小学部

- 阿武隈小特別支援学級との交流学習、地域の高齢者の会「あおぞら会」の方々との交流など地域の方や地域の学校と直接的な交流が実施でき、多様な他者との交流を図ることができた。
- 校舎内学級の公共施設への校外学習や、わかくさ学級のポストや自動販売機を利用する体験学習など、実態に応じた活動を通して、社会の仕組みや公共の場所でのルールやマナーについて知るとともに、経験を上げることができた。

### 中学部

- 実習や職場体験活動、学校見学や授業体験のほか、高等部産業現場等における実習の壮行会や報告会にも参加し、生徒自身が進路を考える機会を増やすことができた。
- 高齢者施設訪問や小塩江中学校との交流活動では、自分から話し掛けたり、互いに応援し合ったりと交流を継続している成果が見られ主体的な活動となった。

### 高等部

- 「職業と生活」や職業講話等を通して、今や将来の自分に必要な考え方や対処方法について考える機会を作り、理解を促すことができた。
- 作品展への出展や清掃活動、他県の支援学校との交流活動を通して、他者を思いやり主体的に活動する気持ちの育成に取り組んだ。

### 進路指導部

- 実習期間だけでなく、壮行会や報告会を含めた事前・事後学習を充実させることで、自己理解を深め進路選択のための情報として整理することができた。
- 各相談会の中で、働くために必要な力を知ったり、社会生活でかかわる機関の理解を深めたりすることができた。

入学

転入出

卒業

小学部

中学部

高等部

### 地域支援センター

センター的機能の充実～地域のニーズに応じた相談・支援の充実をめざします ～教: AA

- 【相談・研修】・(1月末)来校相談件数: 42件 出かける相談支援: 64件 研修支援: 5件
- 【児童思春期病棟入院児童生徒支援】・事業対象児童生徒8名に対し、在籍校訪問やケース会議を実施した。入院児童生徒支援員が、ふくしま医療センターこころの社に週2回訪問し、医師やスタッフと連携しながら在籍校や関係機関と連携を図り、学習支援や退院後のフォローアップを実施した。
- 【特別支援教育研修会】・須賀川市民文化センターで実施した。計180人の参加となった。